

概要報告

AP-BON-ESABIIシンポジウム「生物多様性の情報管理」

第2回ASEAN生物多様性会議のサイドイベントとして、AP-BON-ESABIIシンポジウム「生物多様性の情報管理」を開催した。

本シンポジウムは、地球規模、地域及び国レベルにおいて、生物多様性情報を扱う団体・組織等から専門家を招待し、講演及び意見交換を行うものである。各種の課題やデータの収集、整理、分析、管理及び共有における経験を参加者間で共有し、ASEAN地域における生物多様性情報管理のための新たな方向性について議論がなされた。

日時：平成28年2月17日（水）9：00～17：30

場所：タイ・バンコク センタラグラウンド&バンコク・コンベンションセンター22階
ロータススイーツ8

参加者：10か国から約30名（聴衆含む）

（1）目的

- ・新たな進展と利用に関する共有及び情報連携の利点や最新情報の議論
- ・生物多様性に係るデータの収集、分析、公開、共有に関する経験の共有
- ・生物多様性の情報管理における課題及びその協同対策に関する議論
- ・ASEAN地域における生物多様性情報管理のための協力分野の特定

（2）期待される成果

- ・ASEANにおける生物多様性情報の利点及び実用性の展望
- ・地球規模、地域及び国レベルにおける生物多様性のデータの収集、整理及び分析の成果についての普及啓発、理解及び評価
- ・ASEAN地域における生物多様性情報管理のための協力分野の特定

（3）議事概要

本シンポジウムの開会に際し、議長のDr. Sheila Vergaraが挨拶を行った後、生物多様性情報を扱う各団体・組織等の専門家より、生物多様性情報の管理に関する現状及び課題に関する発表が行われた。発表の概要は以下のとおり。

1. GEO BON ネットワーク

Dr. Jorg Freyhof (GEO BON)

ASEAN地域は豊かな生物多様性を有しているものの、生物多様性の損失におけるホットスポットになっている。GEO BONは、ASEAN地域等の途上国における生物多様性の保全に取り組んでおり、地域レベルの生物多様性情報に関するプラットフォームやシステムの設立を

支援する「BON in a BOX」を通して、国別観測システムの開発を推進している。その他、生物多様性必須観測要素（EBVs）を紹介するとともに、「BON in a BOX」の活用及び国別BONの設置を呼びかけた。

2. 地球規模生物多様性情報機構(GBIF)

Mr. Tim Hirsch (GBIF)

GBIFが扱う生物多様性のデータは、およそ6.6億件であり、約800の機関により多岐の分野に渡って活用されている。最近の主な取組として、データが研究や政策において適切に引用されるよう、より便利で実用的なデータ提供方法を開発している。また、GBIFのアジア生物多様性情報基金（BIFA）による助成事業を紹介するとともに、同基金を活用し、各国における生物多様性データの作成・共有を活性化するよう呼びかけた。

3. 総合公開ツールキット（IPT）を用いたデータ公開

Dr. Yu Huang Wang (TaiBIF)

2012年の地球規模生物多様性情報科学概況（GBIO）では、生物多様性保全のためには未だ大量のデータが不足していると結論づけられており、データを有益な情報にするためには標準化が重要である。そこで、GBIFが開発した総合公開ツールキット（IPT）を利用すれば、Darwin Coreのような標準様式でデータを公開できる。その他、BIFAによる今年の助成事業4件のうち、2件は東南アジアにおいて実施されることを報告した。

4. FishBaseの成果とツール

Dr. Christine Casal (FishBase)

水産天然資源に関する情報を利用できるグローバル情報システムのFishBaseを紹介。世界中の2,200人を超える専門家から、出版物、参考文献、概要及び写真等の提供を受けており、ASEAN地域だけでも7,779種の魚類が登録されている。また、1か月あたりのアクセス回数は約700,000件であり、主に各魚種の概要と写真を提供している。

5. 海洋生物地理情報システム（OBIS）

Mr. Ward Appeltans (OBIS)

海洋生物のデータ検索システムであるOBISには、4,600万の観察に基づく117,000生物種のデータが登録されており、これまで約1,000件の論文で引用されている。OBISは、約120のノードと連携した500のデータ提供者を有しており、OBISノードの一つには東南アジアを担当するACBが含まれているが、東南アジアの情報数が非常に少ないことが課題である。その他、ベルギー事務所におけるデータ管理研修が軌道に乗っており、ASEAN地域での開催も実現させたいと述べた。

6. ASEAN地域の植物に関するフィールドガイドの開発

Dr. Edwino Fernando (CFNR-UPLB)

分類学に関する情報は、公園管理者や自然保護官、生態学者等が種の保全及び管理等に取り組む際に欠かせないものであり、フィールドガイドは、種の分類情報を明確にするツ

ールとして利用価値の高いものである。フィールドガイドの形態は多種多様であり、一般的に植物に関するものが多いが、さらに多くの分類群に関するフィールドガイドの需要が高まっている。また、ACBが日本の環境省やESABII、日ASEAN統合基金（JAIF）の協力を得て、ASEAN地域の植物に関するフィールドガイドの開発に取り組んでいることを紹介するとともに、分類学における人材育成の重要性について述べた。

7. 東南アジア地域におけるESABIIの進捗と課題

Dr. Dedy Darnaedi (LIPI)

ESABIIには14カ国が参画しており、主な活動として、植物やサンゴの分類、研修マニュアルの開発、CITES掲載種の識別などに関する地域研修を実施している。東南アジアは豊かな生物多様性を有しているが、未分類の種が多いため、分類学における人材育成の継続が極めて重要。その他、会場からの研修効果に関する質問に対し、評価の仕組みは無いが、研修生を募集する際には選定基準を考慮していると回答した。

8. アジア太平洋地域生物多様性観測ネットワーク（AP-BON）

Dr. Eun-Shik Kim (Kookmin University)

AP-BONは、日本の環境省が支援する生物多様性情報ネットワークに関する地域イニシアティブであり、地球規模から地域及び国レベルまでの各BONや、CBD-COP、IPBESとの連携を保っている。主な活動としては、生物多様性情報ネットワークの構築やAP-BON Bookの発行などであり、第7回会議が当地において間もなく開催される。また、AP-BONの活動に関連して、IPBESのアセスメントが開始されたことやGEOの新たな戦略計画2016-2025、中核事業であるS9の終了について紹介した。

9. ABCDネット

Dr. Maofang Luo (Chinese Academy of Sciences)

アジアを始め、生物多様性が豊富な地域における情報共有は未だ十分ではない。そこで、アジアにおける情報の統合及び共有の地域枠組みとして、2013年、ABCDNetが中国科学院（CAS）により設立された。主な活動としては、データ共有に関するワークショップ、中国及びアジア地域の鳥類に関する情報システムの開発、アジア地域のレッドデータリストのデータベース作成などがある。その他、今後の活動として、生物多様性情報科学に関する書籍の編集や、絶滅が危惧される植物100種に関するマッピング事業について紹介した。

10. NatureServeのダッシュボード

Dr. Xuemei Han (NatureServe)

NatureServeは非営利の環境保全団体であり、保全活動に必要な科学的根拠の提供を目的としている。ダッシュボード事業は、マッカーサー基金を得て開始され、ACBなどの国際的パートナーの協力を得て、視覚的指標やコミュニケーションツールを提供している。また、愛知目標の達成状況を確認し、天然資源の保護政策を決定するための情報を提供するなど、Web上で利用可能な双方向の生物多様性指標となっている。その他、ダッシュボード事業では、主な重要地域の図表作成や生物多様性の変化を画像化も実施しており、少なくとも今

後50カ国で展開していきたいとした。

11. ASEANのクリアリングハウスメカニズム (CHM)

Mr. Christian Elloran (ACB)

ASEAN CHMは、同地域における生物多様性情報を調べることができ、種、保護地域、侵略的外来生物種等のデータベースを共有するプラットフォームである。ACBは、ASEAN地域の国別CHMなどから得た情報をASEAN CHMに登録しており、現在、68,750生物種のデータが蓄積され、その他、電子図書、ポスター、映像等のオンラインツールも開発されている。

12. マレーシアにおける生物多様性クリアリングハウスメカニズムの進展 (CHM)

Ms. Hamidah Binti Mamat (FRIM)

マレーシアCHMは、Malaysia Biodiversity Information System (MyBIS) として生まれ変わる予定である。主な目的は、マレーシアの生物多様性情報に関する効率的なプラットフォームの提供であり、「知る、探す、分析する、参照する」の4つ機能を充実させ、希少種の分類学的解析や保護区の評価などを実施できる。その他、国別CHMの必要性及び重要性を訴えるとともに、政策決定への貢献が重要であるとした。